



松ぼっくり釣り



投げ入れて！



爽やかに泳ぐサカナ



トンボや蝶と遊ぶ

見せるもの、見るもの、参加型の自然観察とそれぞれ工夫が凝らされたものが色いろいろありました。ネイチャーゲームとして、普段気づかない視点で木、葉、根っこを見て歩き、音を聞きながらビンゴゲームを仕上げる。今回は時間と場所が限られるので指導の方に連れられていたが、キャンプや自然観察では大人のゲームとしても使えそう。鳥の写真、望遠鏡を用いたバードウォッチング、集められたたくさんの木の枝には毎年何か懐かしさを感じます。生きた魚の泳ぐ姿には爽やかな空気が流れているようでした。小さな蚊帳の中に放たれたトンボや蝶には子どもたちは蚊帳の中に入って直接見、触り、興味を引いていました。

好天に恵まれ午後家族連れが来られ、終了の時間が近くでも工作、お土産作りを続けていました。

会場内では修了生が懐かしそうに話しあっているのを見かけました、旧交を温めているのでしょう。自然大学校では修了生が一同に集まれるイベントは、この万博ネイチャーフェスと、12月に行われる「文化祭：コンテンポラリーアート展」で、同窓会等で行われる「ホームカミングデイ」のような働き、持ち方も考えられるよう思います。

シニア自然大学校は社会貢献することを一つの柱にしています。この万博ネイチャーフェスもその働きを担っています。社会の多くの人々に見てもらって、楽しんでもらい、自然の楽しみ方、自然の恵みを感じ、自然に生かされていることを発信することで、社会貢献に繋がっていくと思います。

終了式では代表理事の濱面さんが挨拶をされました。その中で来場者数を10264人と報告、皆さんはこの数字どのよう受け止められたでしょうか？

講座生の方は多分初めての経験でしょう、慣れない準備に苦労された方も、準備を楽しまれた方もいると思います。社会の人々に喜ばれることをした経験を生かしていただけたいと思います。修了生の皆さまご協力ありがとうございました。日頃の活動をいっぱい生かされたことと思います。今後も、楽しく研究、研修を積み重ね生かしていただきたいです。
(広報 石原)

～この幼虫は何？論議～

昆虫科 金子 留美子

ネイチャーフェスで昆虫科は生きた昆虫のハンドオン展示を行いました。平たく言うと生きた昆虫に触れられると言うことです。「大きな虫かご」と称し、蚊帳の中に昆虫を放し入れ、その中に入って観たり触ったり出来る展示と、透明のプラカップに入れてテーブルに並べ、直接触らなくても手に取って身近に見られる展示です。

そのカップの中に見ただけでは土しか入っていないカップがありました。中には甲虫の幼虫が入っていました。「甲虫の幼虫」としか言えないのは、展示しているこちら側もカブトムシかクワガタか決定的な説得が出来ないからです。昆虫科メンバー全員で議論しましたがクワガタかカブトか結論が出ないのです。「多分カブトムシではないだろうか」程度のことしか言えません。



そのカップに何が入っているのか分かっているのか「これ何ですか？」と聞く小学3年生くらいの小さな来客者がありました。甲虫の幼虫が入っているのだが何の幼虫かは分からないことを伝えると、中の幼虫を見てカブトムシの幼虫だと言うのです。どうして分かるのか尋ねると、ポイントを4つ挙げてくれました。顔の色と気門の色、牙の形状と肛門の形と説明してくれました。気が付くと、その論議の参加者はいつのまにか同年代くらいの小学生3人になっていて、3人ともカブトムシだと結論付けてくれて一件落着。

「この幼虫もらえますか？」と言われたので、展示だから3時半の終了までは

あげられないからと言うと、ちゃんと待っていていたのか、終了のアナウンスとほぼ同時に次々と取りに来てくれ、カブトムシの幼虫たちは里子にもらわれていきました。昆虫少年の大人顔負けの知識に教えられた一日になりました。

カブトムシとクワガタの幼虫の見分けポイント

	顔の色	気門の色	牙の形状	肛門の形
カブトムシ	濃い茶	濃い茶色	湾曲が強くある	横に筋が入る
クワガタ	薄茶色	薄茶色	湾曲が少ない	縦に筋が入る